

猿 橋  
小学校

猿 橋 小 学 校

猿橋小は明治期における  
猿橋小の旧名。切磋琢磨の  
意が込められている。

## 「無理をさせない」と「頑張らせない」は違う

校長 澁谷 一 男

桜の開花が記録的だった今年は、梅雨入りの時期も例年になく早いようだ。比較的天候が安定しているこの時季に、土曜・日曜の両日も雨で運動会の開催が危ぶまれることは、これまであまり経験のないことだった。

予定どおり実施できたことは、何よりであった。



「“無理をさせない”と“頑張らせない”は違う。」医学博士であり臨床心理士の宮口幸治氏は、著書「どうしても頑張れない人たち」で、このように説く。一昨年ベストセラーになった「ケーキの切れない非行少年たち」の続編である。

子どもに過剰な負担を掛け、無理を強いるのはよくないことだ。しかし、それは「頑張らせない」とは意味が違う。人は、生きていくために、努力することや頑張ることは不可欠だ。しかし、「頑張らなくていい」「無理しなくていい」というメッセージが、時に誤解されて伝わっていることがある、と宮口氏は指摘する。それらのメッセージは、十分に頑張っただけの人へ向けた人へのいたわりの言葉であり、まだ頑張っていない人への言葉掛けではない。「頑張らなくてもいい」といった安易な言葉掛けは、場合によっては無責任であり、今その人が直面している課題をどんどん先送りにしてしまうリスクがあるというのだ。

ある子どもは、幼少の頃から頑張り屋さんと言われていた。保育園で縄跳びの練習をあまりに頑張りすぎて足を痛めたので、親が「もう頑張らなくていい。」と止めたそうだ。その後、その子が何かをやるとうするたびに、親は、「無理しちゃだめだよ。やればできるんだから。」と言いつづけた。結果、その子は、勉強もしない、運動もしない、何もチャレンジしない日々を送ることになった。「無理をさせない」と「頑張らせない」をはき違えた例だ。その子は、大人になってから、親に対して、あの時もっと頑張らせてほしかった、と語っていたという。

「みんな違ってみんないい」それは確かにそのとおりだ。成長の仕方も早さも一人一人みんな違う。しかし、みんなと同じにならなくてもよいからと、できることすらさせなければ、その子の可能性は広がらない。少し頑張ればできる、その子なりの目標をもたせ、達成に向けて頑張れるよう見守り支援する、それが大人の役割ではないだろうか。

2年振りに実施した運動会。子どもたちは皆、精一杯頑張る姿を見せてくれた。閉会式での子どもたちの顔は、やり切った満足感に満ちていた。ウイルス禍で様々な制限がある中、一大行事をみんなできり上げたこの経験は、必ずや今後の成長の糧となることだろう。